

2 プラットフォームの形成

(2-1) 目的と方法を共有しよう



4人がそれぞれ信頼できる人たちに声をかけると、年齢や職業の異なる10人が第1回目の会合に集まってきました。

まず、発案者の青木さんが、趣旨説明をして、課題や目的、「思い」を伝え、石川さんが清掃登山によって実現していくという方法について提案しました。

また、みんなに、とちぎ山のゴミ問題に関する新聞記事を回覧し、質問や意見などを出してもらいました。すると、「とち

ぎ山も昔はきれいだったのになあ。この間行ったときは汚くてがっかりしたな。」とか、「以前、違う山で清掃登山に参加したことがあったけど、地元の人にも喜んでもらえてうれしかったよ。」といった意見が出されました。

みんなの考えを十分に聴いたので、会議終了時には、全員が同じイメージを抱き、思いを共有することができました。

そして、「とちぎ山清掃登山プロジェクト」と名付け、具体的な企画作成に取り組んでいくこととなりました。

仲間が集まり、いよいよプラットフォームが形づくられてきました。さまざまな人たちが参加するプラットフォームであっても、その目的は一つです。メンバー同士で**☆目的を共有することで、事業の方向性が明確になります。**

また、目的だけではなく、その**☆実現方法についても話し合い、共有しておく必要があるでしょう。**目的は同じであっても、その実現方法で意見が分かれ、事業が途中で行き詰まってしまったり、プラットフォームが空中分解してしまうこともあるようです。

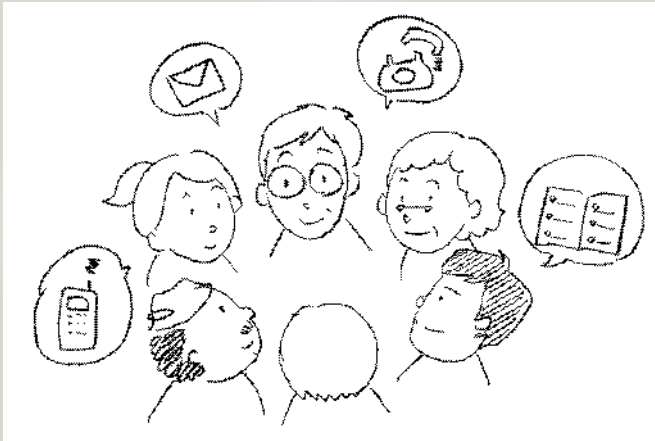
多くの人の理解を得て、意見を一つにまとめることは簡単ではありません。しかし、**☆自分の考えや意見をきちんと説明するとともに、他の人の意見もよく聴く**ことで、お互いが理解でき、同じ「思い」を持つ仲間となって事業を進めることができます。

協働のコツ

☆ じっくりと話し合い、目的と方法、そして思いを共有しよう。

☆ 自分の意見をきちんと主張し、相手の意見もよく聴き、お互いを理解しよう。

(2-2) 中心となるメンバーはどんな人？



第1回目の会合に集まった10人のうち、大塚さんと加藤さんの2人が事務局を申し出てくれたので、発起人の4人を含めた6人が事務局となり、プロジェクトを運営していくこととなりました。

6人は、それぞれ活動の幅も広く、自分の所属する団体の情報や誰が何に詳しいのかをよく知っていて、困ったときには誰に相談すればいいのか、誰に協力してもらおうといいのかという人脈も備えていました。

6人は、携帯電話の番号や、メールアドレスなどの連絡先を交換し、いつでも情報交換ができるようにしました。

また、メンバー間でプロジェクトに関する考えを統一しておくために、何か気になることがあったらすぐに連絡を取り合い、必要なときは会って相談できるようにしました。

プラットフォームを運営していくには、まとめ役ともいうべき中心的な役割を担う人たちが必要です。中心メンバーは、会議の開催などの実務だけではなく、意見をまとめたり、人と人をつないだりといった調整も行うため、**☆いくつかの団体に所属していたり、友人や知人がたくさんいるなど、活動的で豊かな人脈を持っている人が適任**のようです。

また、中心となるメンバー同士では、とりわけ、情報共有が重要です。同じ思いを持つことで、意思決定を迅速に行うことができます。**☆こまめに連絡を取り合い、必要があれば会うこともできる環境を整えましょう。**

協働のコツ

☆ 中心メンバーは、人と人をつなぐコーディネーターの役割を担おう。

☆ すぐに連絡が取れ、必要があれば会うことができる関係をつくろう。

コーディネーターとしての役割

「中心メンバーは、人と人をつなぐコーディネーターの役割を担おう。」を協働のコツにあげましたが、具体的に、コーディネーターの役割とはどのようなものでしょうか。

① 人と人をつなげる役割

目的を実現するための協力者を見つけたり、同じ目的や考えを持っている人や、手を組むと大きな成果を生む人たちをつなげるとともに、対立する人の仲立ちなどを行います。このため、**バランス感覚に優れ、広い視野、寛容さ、豊かな人脈を持ち、それぞれの特性を把握していることが必要**です。

② 円滑な議論を促進する役割

会議やミーティングなどにおいて、メンバーが対等な立場で活発に発言できるような雰囲気をつくりだすとともに、話の流れを整理したり、認識の一致を確認したりして、円滑で実り多い会議となるよう、ファシリテーター（進行役）を務めます。

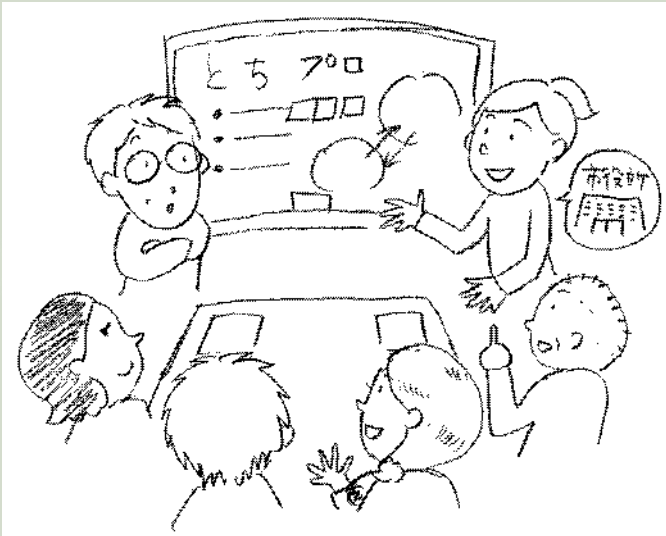
③ プロジェクトを統括する役割

企画立案、人材・物資・資金などの調達、事業の進行管理など、プロジェクトが成功するよう全体を統括します。

プラットフォームの中心メンバーに求められるのは、カリスマ的にメンバーを引っ張っていくリーダーではなく、**メンバーの声をよく聴き、いろいろな意見を柔軟に一つにまとめ、実現に導く、コーディネーター**なのです。

3 事業を企画する

(3-1) 活発な議論こそプラットフォームのおもしろさ



今回のプロジェクトで、具体的にどのような事業を行うのか、企画を練るため、2回目の会合が開かれました。

事務局の6人から事業の規模や日程、環境保護の普及啓発につなげるための事業内容やできる限り環境に負担をかけない実施方法など、おおまかな事業の案がメンバーに説明されました。

そして質疑や意見交換が始まると、これはもう大変でした。

「市に相談したら支援や協力が得られるかもしれない。」という意見が出ると、「これは自分たちで自主的に行うことだから行政とは無関係に自由にやりたい。」という意見も出て、それぞれに賛成、反対する意見もあり、なかなか結論が出ませんでした。

しかし、市役所職員の遠藤さんが、担当課との仲介役を買って出てくれたため、市役所に協力してもらえないか相談してみようという結論になりました。

また、大塚さんからは、「うちの会社の清掃活動キャンペーンの一環とすれば、ゴミ袋や道具を提供できるかもしれない。会社に提案してみるよ。」と発言がありました。

さらに、以前イベントを開催した経験があるメンバーから、「いざという時のために、参加者には保険に加入してもらい、連絡先の一覧表を作成したほうがいいよ。保険は以前に利用したことがあるから、私が手配するよ。」という提案もありました。

このように自分の得意なことを生かした提案が続き、事業計画がつくられていきました。

さまざまな考えの人たちが参加するプラットフォームでは、その多様性ゆえに全員の意見がなかなか一致しないことがあります。しかし、**☆多様性こそがプラットフォームの財産なのです。☆多様な視点での検討は、多くの人に満足される事業を生み出すことはもとより、少数派の意見や危機対応の点にも配慮されたきめ細かな事業運営につながります。**

では、多様性を生かしながら活発に議論し、それらの意見をまとめるためにはどのような工夫が必要でしょうか？

物語では、それぞれのメンバーが、**☆経験や得意分野を生かし、自ら行動することを提案**していますね。

また、**☆言いたいことを言える、議論しやすい雰囲気づくり**も大切です。みんなが安心して発言できるよう、話の中で出た秘密を守るとともに、公平な立場で、多くの人から意見を引き出すファシリテーター（会議の進行役。コーディネーターが兼ねることもあります。）がいると効果的です。

時には意見が対立し、議論が停滞してしまうかもしれません。そんなときは、まずは☆**原点に立ち戻り、当初の目的を確認**しましょう。各自の目的に対するイメージや思いの違いが、対立の原因であったりするものです。だからといって、☆**原案にこだわりすぎず、それぞれの意見を受け入れ、変えていく柔軟な姿勢**も大切です。

それでも、実際には、容易に合意できないこともあるでしょう。そんなとき、結論を急いで強引に議論を進めるのは危険です。☆**見方や言葉を変えて考えたり、時間をおいたりして、気分を新たにす**る工夫が必要です。また、お互いの意見を譲り合い、合意できる着地点を見いだすことも大切です。

協働のコツ

- ☆ 意見やこだわりの違いは、プラットフォームの財産。違いを楽しみ、生かすゆとりを持とう。
- ☆ 自分から行動し、主体的な提案をしよう。
- ☆ みんなが言いたいことを言える対等な関係で議論しよう。
- ☆ 意見が対立したときや行き詰まったときは、「目的」に立ち戻って考えよう。
- ☆ 原案にこだわらず、柔軟な考えを持とう。
- ☆ それでもダメなら、敢えて先送りして、新たな気持ちで考えてみよう。

協働のコツ プラス1

「組織」であっても、「個人」のつながり？

現在、多くの企業や行政においては、人員削減が進められ、社員（職員）一人ひとりの能力を最大に生かして効果的に仕事を進めることが求められています。この場合の能力とは、仕事で培ったものだけではなく、ふだんの生活や趣味などから得た経験や知識、特技、人脈など、その人の潜在的な能力も含む個人の総合的な能力を指しています。

実際の協働の現場では、組織同士の協働であっても、こうした個人の能力をきっかけとして、プロジェクトがはじまることが多々あります。「仕事だから」、「担当者だから」という姿勢ではなく、**自分の能力を発揮し、主体的に関わっていくことが重要**です。

プラットフォームでの検討を円滑に進めるためには、**日頃から組織の情報を多く得るよう**に努め、その上で、**しっかりと自分の考えを持つこと**を心がけましょう。

(3-2) 伝えるための資料づくり



さて、市役所に相談に行くにあたり、仲介役となってくれた遠藤さんが、「こちらのやりたいことがきちんと伝わるよう企画書を作成して持って行こう。」と提案しました。大塚さんも、「企画書があれば、会社にも説明しやすいからいいね。」と遠藤さんの意見に賛成しました。

そこで、事業計画の資料をもとに、自分たちができること、したいこと、市役所や企業に依頼したいことなどを明確にした企画書を作成することにしました。

青木さんと石川さんができあがった企画書を持って市役所に行き、自分たちの考えを説明すると、プロジェクトの趣旨を理解してもらえたためか、山で拾ってきたゴミの処理を市役所が引き受けてくれることとなりました。また、大塚さんも上司の了解を得ることができ、会社からゴミ袋や道具を提供してもらえることになりました。

こうした協力を得るにあたり、事業の目的や責任の所在を明確にするためにも組織をつくらうということになり、規約などを整えて「とちぎ山清掃登山プロジェクト実行委員会」として活動していくことにしました。

事業を進める時は、☆**どのような事業を実施するかを明らかにし、メンバー間で共有するためにも、事業企画をまとめたものをつくりましょう。**必要に応じて、チラシやメモなど簡易なものでもよいようです。

また、事業によっては、他の団体や企業、行政などと協力・協働したほうが効果的な場合があります。その場合には、目的や事業内容、経費、役割分担などを示した☆**企画書を作成し、説明することで、趣旨を正確に伝える**ことができ、相手からの信頼も得やすくなります。

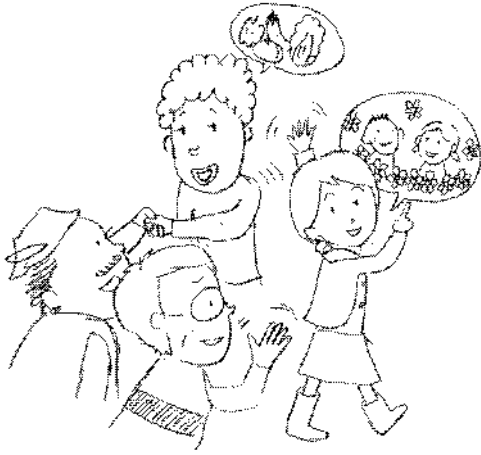
市民主体でつくられたプラットフォームにおいても、企業や行政などから補助金等の支援を受けるなど、協働して事業を進める場合には、申請や契約などの手続が必要になります。その場合には、企画書のほかにも、☆**規約や役員を決めるなど、責任の所在を明確にすることが必要**となります。それにより、☆**団体の透明性が高まり、社会から信頼される**ことにもつながります。

協働のコツ

☆ **事業内容を明らかにし、協力者を得るためにも、企画書をつくらう。**

☆ **多くの人々に理解してもらうために、団体の規約などを整えておこう。**

(3-3) 開かれたプラットフォーム



実行委員会の会合は、月2回、市民活動支援センター※で行っていたので、メンバーは、センターの職員の菊地さんと次第に親しくなり、声を掛け合うようになりました。

そしてよく話を聴いてみると、菊地さんは大学時代に山岳部にいたので、このプロジェクトに関心があり、自分も実行委員会に参加したいというのです。

では、一緒にやろうということになり、仕事の空き時間には会合に参加してくれたり、相談に乗ってくれたりするようになりました。

菊地さんは若く、斬新なアイデアの持ち主で、市民活動の情報にも詳しいので、次第にみんなから頼りにされるようになりました。また、菊地さんのアイデアに触発され、会合もさらに活発な雰囲気になりました。

一方で、実行委員会から抜けていくメンバーもいました。企画を詰めていくうちに、このプロジェクトとは別に、子どもたちを対象とした環境保護事業をやってみたくなったというのです。環境保護という目的は一緒でも、実現する方法が異なれば一緒にやることは難しくなります。

今まで一緒にやってきたメンバーが抜けることには寂しさもありましたが、やりたいことに向かって歩き出した彼女を応援する気持ちで送り出しました。

菊地さんがメンバーとなったことで、プラットフォームの雰囲気も変わったようですね。**☆新しいメンバーが加わることで刺激が生まれ、プラットフォームが活性化**したようです。

また、プラットフォームはプロジェクトを実行する場である一方、別の新しいアイデアが生まれ、実現に向けて動き出す場でもあります。物語でも、メンバーの一人が新たな目標を見つけて、プラットフォームから巣立っています。

プラットフォームでの出会いから、新たにいくつものプロジェクトが立ち上がり、一人の人が複数のプロジェクトに関わっていくこともあります。

このように、**☆メンバーが自由に出入りすることで、変化が生まれ、プラットフォームが成長し、可能性が広がっていきます。**

協働のコツ

☆ **メンバーが自由に出入りできるようにし、新しいアイデアでプラットフォームの可能性を広げよう。**

※市民活動支援センター・・・NPO・ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちの支援を行っている施設。活動に関する相談や情報発信、会議室の貸出しなどを行っている。

4 事業を実施する

(4-1) それぞれの強みを活かそう



事業計画も細かいところまで固まってきたので、実施のための準備を行うことにしました。

集合場所やとちぎ山の下見に行ったり、道具をそろえたり、役割分担をしながらも、互いの進み具合について連絡を取り合いながら準備を進めました。

また、パソコンの得意な上野さんが中心となって参加者募集のチラシを作り、メンバーそれぞれが人脈を生かしていろいろなところで配布しました。

青木さんは環境保護のイベント会場で、上野さんは自治会に呼びかけて、遠藤さんは講座参加者に配って、菊地さんはセンターの掲示板に貼ったり、

ホームページに掲載して…というような具合です。

また、加藤さんの知り合いの地元紙記者にも企画を説明し、取材してもらえることとなりました。

みんなで努力した結果、参加申込者は定員の20名になりました。

事業を実施するときにも、プラットフォームの機動力や多様性が活かされていますね。一人ではできないことも、それぞれの☆**経験や特性、技術・知識**を持ち寄り、**お互いに助け合うことで、それぞれの能力が引き出され、効果的に事業を進めることができるようです。**

物語では、メンバーそれぞれの人脈を生かして、いろいろな場所で広報活動を行っています。それぞれの☆**得意分野に応じた役割分担**をすることで、**円滑に事業を進めることができます。お互いの進み具合を報告し合い、連携したり、一緒に現場に出ることで、メンバー同士の絆が深まり、信頼が生まれます。**

このように☆**一緒に事業を行うことで、お互いの知識や経験から学び合うことができ、個人の能力もさらに高まることとなります。**

協働のコツ

- ☆ それぞれの得意分野を生かして助け合っていこう。
- ☆ 進み具合の確認をしたり、一緒に現場に出て、メンバーの絆を深めよう。
- ☆ プラットフォームの強みを生かし、お互いの知識や経験から学び合おう。

(4-2) プラットフォームのイメージ



清掃登山の当日、実行委員会メンバーと参加者は出発駅のプラットフォームに集まりました。

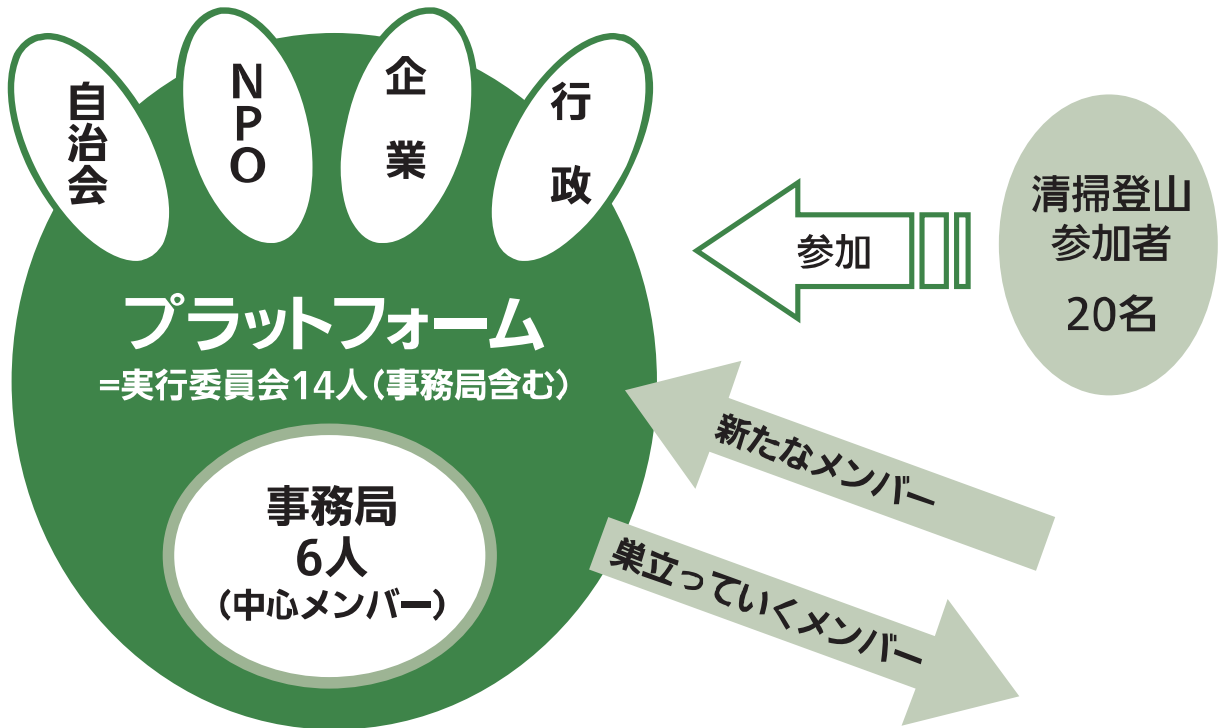
いろいろなところから、それぞれの特徴を持ち合わせた参加者が、とちぎ山という目的地に向かう電車に乗るために、初めて一つの場所に集まりました。

年齢も職業も様々でしたが、登山と環境保護という目的に向かって集合し、同じ電車に乗りました。

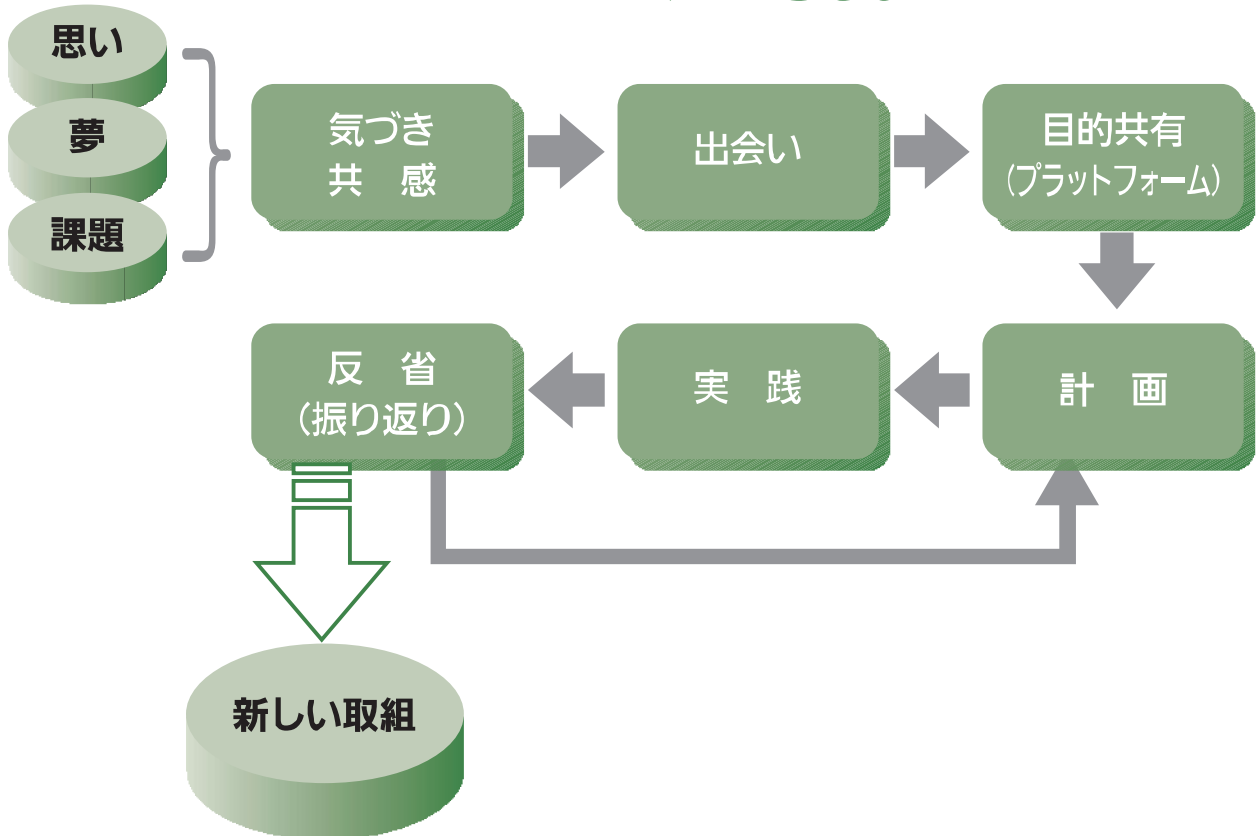
はじめて出会った人々ですが、事務局が配った黄色いリボンが目印となって、一つの仲間のように、「こんにちは。よろしくお願いします。」というお互いがあいさつを交わす、明るい声があちこちから聞こえてきました。



「とちぎ山清掃登山プロジェクト」におけるプラットフォームの形



プラットフォームができるまで



(4-3) 事業を成功に導くために



当日は絶好の登山日和でした。登山経験の豊富な石川さんを先頭に、とちぎ山特有の植物や生態系について説明を受けたり、景色を楽しんだりしながら、ゴミ拾いをして、頂上を目指しました。

頂上に着いた頃には、みんなすっかり仲良くなり、一緒にお弁当を食べたり、集合写真を撮ったりと、楽しい時間を過ごしました。

ところが、いよいよ下山、ゴミ

も順調に集まりもう少しで終了、というとき、参加者の一人がつまづいてねんざしてしまったのです。

みんなが心配する中、青木さんが参加者の中に看護師さんがいたことを思い出しました。あらかじめ用意しておいた薬や包帯で看護師さんに応急手当をしてもらって、全員下山することができました。怪我をしてしまった参加者には、事前に入っていた保険について再度説明し、病院で治療を受ける際の手続についても説明しました。

こうしたアクシデントもありましたが、とちぎ山を後にするときには、みんなきれいになった山を見返しながら、心地よい疲労感と達成感に包まれていました。

そして、駅からまた電車に乗り、朝、集合したプラットフォームに戻りました。来るときは一人ひとりだったのに、みんなで連れ立って帰る姿が印象的でした。

ここでも、メンバーそれぞれの強みが活かされています。

石川さんは登山経験や山の自然に関する知識を生かして事業を盛り上げていますし、怪我人が出てしまっても、参加者に看護師さんがいたので、手当てをしてもらうことができました。

また、以前の企画会議での提案どおり保険に加入していたおかげで、治療費の不安も解消されました。**☆それぞれの得意分野が、事業の充実やリスク回避に活かされていますね。**

このように、プラットフォームが機能すれば、事業が円滑に進み、目的の達成に近づくことができるのです。

協働のコツ

☆それぞれの得意分野を生かして、事業の充実を図ったり危機管理に努めよう。

5 事業の振り返りと今後の展開

(5-1) 「振り返り」を行い、気づきを共有しよう



帰り道、メンバーと参加者有志は清掃登山の反省会をするために、駅近くの居酒屋に立ち寄りしました。

飲みながら反省会をして忘れるといけないので、センター職員の菊地さんが仕切り役となって、「良かったこと・成果」と「悪かったこと・反省点」、「次にしたいこと」について、各自が思い出しながら付箋に書き、似た項目ごとに分類して模造紙に貼っていました。

すると、それぞれがなんとなく感じていた「成果」や「反省点」が整理されました。

そして、次回に向けて実行すべきことが具体的に浮かび上がりました。まとめた意見をもとに、報告書を作成することにしました。

とちぎ山を少しでもきれいにできたという充実感、同じ汗をかいた仲間との絆、そんな喜びの中で、最も盛り上がったのは「このメンバーで他にも何か新しいことに挑戦してみよう!」ということでした。

「実は、わたし、こんなことしてみたいんですが・・・。」
おっと、また新しい協働が生まれそうな予感がします。

事業が終わった後、**★振り返りを行うことで、事業の成果や反省点が明らかになり、次へのアイデアが生まれてきます。**次の事業をより充実したものにするためにも、また、自らの学びのためにも振り返りを行い、みんなで共有しましょう。さらには、**★結果を報告書などにまとめることで、次への意欲もわきます。**

振り返り・評価は、プラットフォームを円滑に進める上で大切です。成果と反省から新しい課題が見つかり、また一緒に何かをしたくなるという思わぬ副産物も生まれる可能性を持っています。

プロジェクトには、終わりがありますが、そこで培った人のつながりには終わりはありません。新しい協働をするときにも生きてきます。この事業をきっかけに、新たなプロジェクトに向かって巣立っていく人がいることは、プラットフォームによる協働の大きな成果といえるでしょう。

協働のコツ

- ★ 振り返りを行い、成果や反省点を明らかにし、次に生かそう。
- ★ 結果を報告書などにまとめてみよう。

Ⅲ チェックしてみよう「協働のコツ」

物語から発見した「協働のコツ」を、もう一度振り返ってみましょう。
あなたが実際に協働に取り組む時にも、是非役立ててください。

協働のコツ		チェック
1	社会や地域の課題に関心を持ち、何とかしたいという思いを生かそう。	
2	自分から声をかける。まずは4人くらいからはじめてみよう。	
3	協働は「人と人のつながり」からはじまる。日頃から人との付き合いを大切にしよう。	
4	人の意見を最後まで聴き、受け入れ、どうすればできるのかを考えてみよう。	
5	じっくりと話し合い、目的と方法、そして思いを共有しよう。	
6	自分の意見をきちんと主張し、相手の意見もよく聴き、お互いを理解しよう。	
7	すぐに連絡が取れ、必要があれば会うことができる関係をつくろう。	
8	意見やこだわりの違いは、プラットフォームの財産。違いを楽しみ、生かすゆとりを持とう。	
9	自分から行動し、主体的な提案をしよう。	
10	みんなが言いたいことを言える対等な関係で議論しよう。	
11	事業内容を明らかにし、協力者を得るためにも、企画書をつくろう。	
12	メンバーが自由に入出入りできるようにし、新しいアイデアでプラットフォームの可能性を広げよう。	
13	それぞれの得意分野を生かして助け合っていこう。	
14	進み具合の確認をしたり、一緒に現場に出て、メンバーの絆を深めよう。	
15	プラットフォームの強みを生かし、お互いの知識や経験から学び合おう。	
16	振り返りを行い、成果や反省点を明らかにし、次に生かそう。	

Ⅳ ワーキンググループ班員名簿と開催状況

本書の作成にあたっては、実際に協働に取り組んでいる方々によるワーキンググループを設置し、栃木県社会貢献活動促進懇談会の御意見を聴きながら検討を重ねました。

1 ワーキンググループ班員名簿

(敬称略 50音順、平成24年3月31日現在)

No.	氏名	現職等
1	安藤 正知	NPO法人宇都宮まちづくり市民工房理事
2	薄羽 豊典	NPO法人ましこイーまちネット理事長
3	鈴木 廣志	野木町立南赤塚小学校教頭、NPO法人ハイジ理事
4	廣瀬 隆人 (班長)	宇都宮大学教授、とちぎ市民協働研究会代表
5	堀江 則行	トヨタウッドユーホーム株式会社 経営企画部企画広報グループ長兼同部秘書課長
6	谷田 克彦	栃木県県民生活部県民文化課主任(那珂川町)

2 開催状況

(1) ワーキンググループ

平成23年5月13日、6月10日、7月8日、8月26日、9月9日、10月14日、11月25日、12月9日、平成24年1月13日、3月9日(全10回)

(2) 栃木県社会貢献活動促進懇談会

平成23年11月15日、平成24年2月16日

とちぎの協働ルール
物語から学ぶ協働のコツ

発行年月日 平成24年7月
発行 栃木県県民生活部県民文化課
〒320-8501
宇都宮市塙田1丁目1番20号
TEL 028-623-3422
FAX 028-623-2121
メール kyodo@tochigi.lg.jp

がんばろう日本!
元氣をとちぎから。



とちまるくん



R70



この印刷物には大豆配合率70%の
再生紙と環境にやさしい大豆洋イ
ンクを使用しています